

エコアクション21
環境活動レポート

実施期間 令和5年1月～令和5年12月

認証・登録番号 0001833

令和6年2月1日

株式会社武蔵野

<事業の概要>

(1) 事業者名

株式会社武蔵野
代表取締役 北田等

(2) 創業 昭和30年5月

(3) 設立 昭和63年10月

(4) 資本金 3000万円 売上高 382百万円(令和5年度)

(5) 所在地

本社・弥生町事業所
東京都中野区弥生町2丁目50番8号
本社営業所 東京都中野区弥生町2丁目51番5号
鷺宮事業所 東京都中野区鷺宮4丁目43番9号
戸田事業所 埼玉県戸田市美女木6丁目6番6号

(6) 環境保全関係の担当者連絡先

担当者 代表取締役 北田等
連絡先 TEL 03-5340-7647 FAX 03-5340-7648

(7) 事業所の規模

従業員数 46名

保有車両

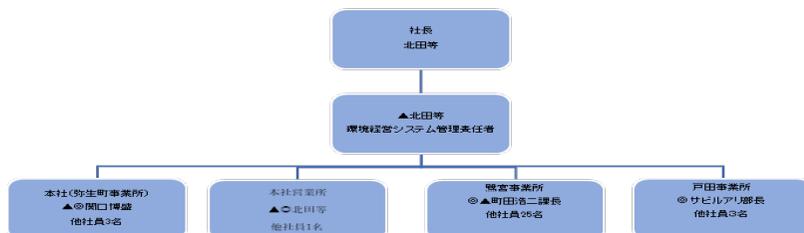
4トン平ボディ	2台
2トン平ボディ	12台
1.5トン平ボディ	3台
パッカー車	6台
軽トラック	2台
営業車	1台

処理能力

本社・弥生町事業所	・びん 手作業による 色選別	8トン/日
戸田事業所	・びん 破砕機 ・缶 選別プレス	5トン/日 5トン/日

事業所の床面積

本社・弥生町事業所	320.0 m ²	フォークリフト 1 台
本社営業所	35.0 m ²	
戸田事業所	460.0 m ²	フォークリフト 2 台
鷺宮事業所	70 m ²	



取り扱った廃棄物・再生資源の量

収集運搬量	2023 年
びん	2554.5 t
缶	558.6 t
ペットボトル	491 t
プラスチック	12.8 t
古紙	0 t
一般廃棄物	74.1 t

処理量	2023 年
びん	2173 t
缶	1277 t

(8) 環境マネジメントシステムの運用の範囲 (全社)

(9) 事業内容

- ・ 空き瓶、空き缶等再生資源の回収、処理並びに販売

(10) 許認可関係

・ 産業廃棄物収集運搬業

・ 東京都 1300080511

許可日 平成13年10月29日

期限 令和8年10月28日

種類 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリート・陶磁器くず

・ 埼玉県 1101080511

許可日 平成15年1月17日

期限 令和10年1月16日

種類 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリート・陶磁器くず

・ 廃棄物再生事業者登録

・ 東京都 第7号

登録日 平成4年12月15日

種類 空き瓶の再生

・埼玉県 第1-28号

登録日 平成13年4月26日

種類 空き瓶の再生、空き缶の再生

・一般廃棄物収集運搬業

・東京都小金井市 138号

許可日 平成16年2月18日

期限 令和8年2月17日

種類 ガラスくず、金属くず、廃プラスチック類

・一般貨物自動車運送業

・460006613 許可日 平成13年7月26日

・古物商

・304390305211号

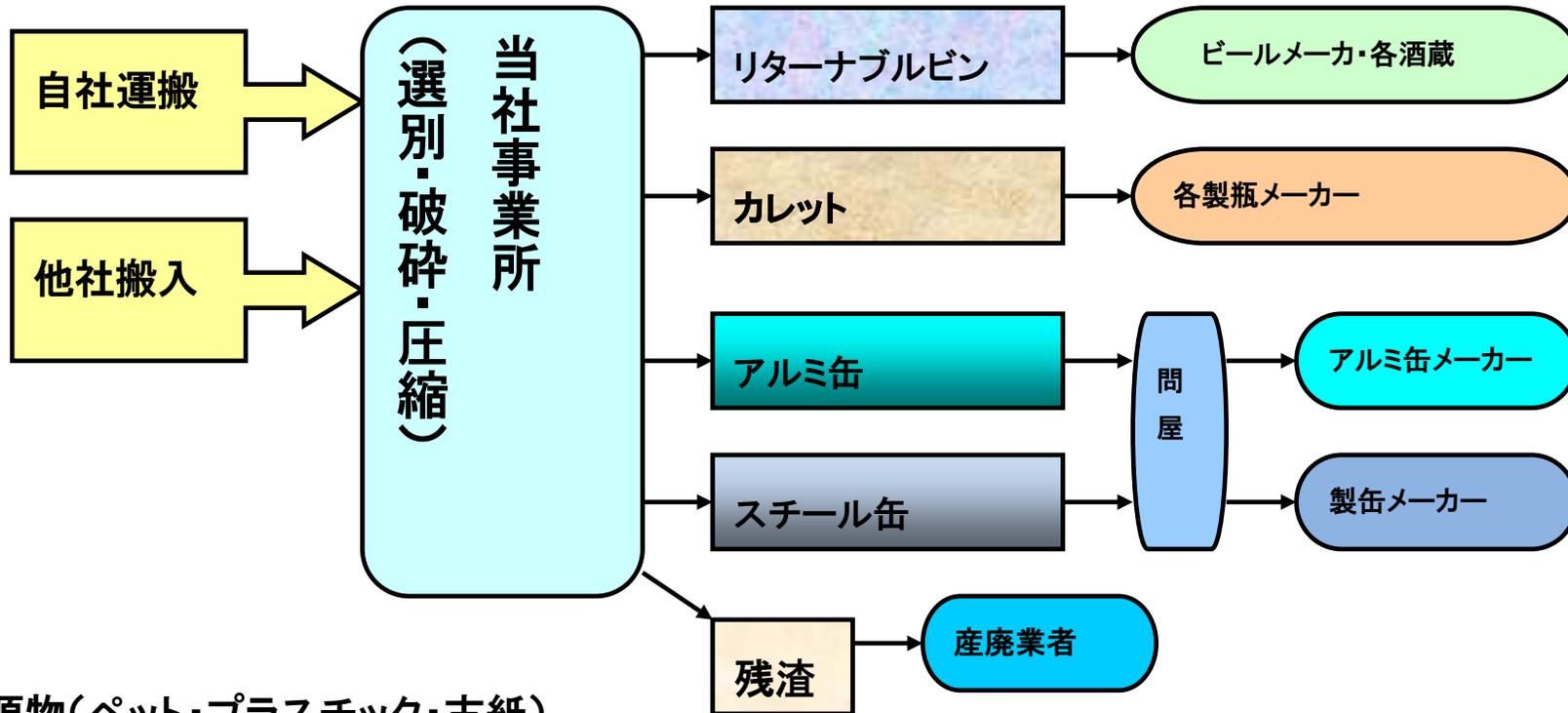
許可日 平成15年1月20日

作業の流れ

(株)武蔵野

H29.12.31

資源物(びん・缶)



資源物(ペット・プラスチック・古紙)



<環境方針>

・基本理念

我々は、社会の一員として、地球環境の復元、保全が人類共通の課題であることを認識し、経営の最重要課題と位置付け、資源リサイクル事業を通じて、循環型社会の創造、持続可能な社会の実現を目指し、快適で住みよい社会を次世代へと引き継ぐことに貢献します。

また、大量生産、大量消費、大量廃棄に依存した脆弱な経済構造より脱却し、資源循環型の安定的経済構造への転換を図ることにより、安定した雇用を創設し、もって安心して暮らせる社会の創造を目指します。

・行動指針

我々は、資源リサイクル事業と言えども、環境に対して何らかの影響を与えていることを認識した上で、継続的に以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業に関係する諸法令、規制等を遵守し、安全確実に業務を遂行します。
2. 以下の環境負荷の削減に取り組めます。
 - (1) CO₂ 排出
 - (2) 廃棄物排出
 - (3) 総排水量
3. 廃棄物の効果的な分別とリサイクルを調査研究しリサイクル率の向上に取り組めます。
4. 従業員に対する環境教育を実施します。

平成19年1月1日

株式会社 武蔵野

代表取締役 **北田等**

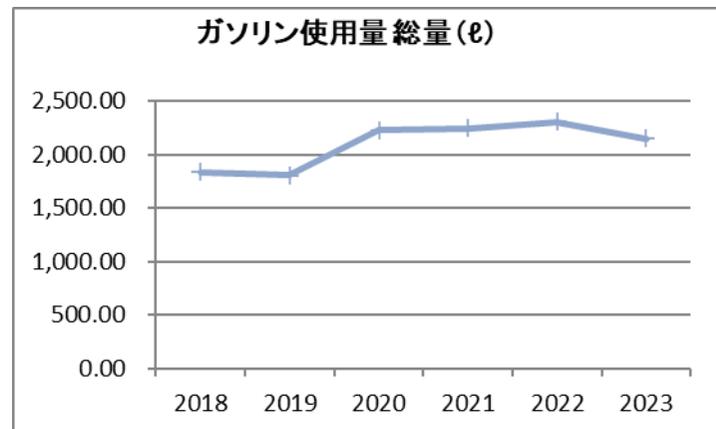
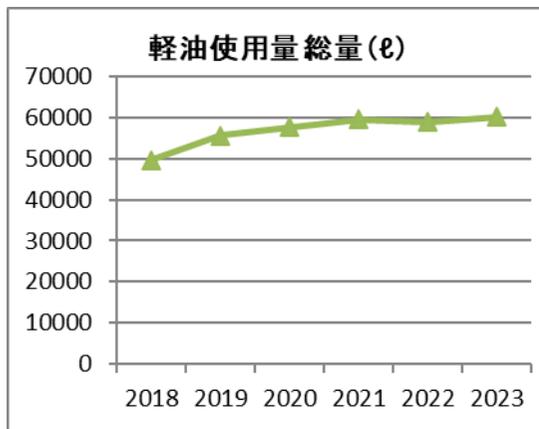
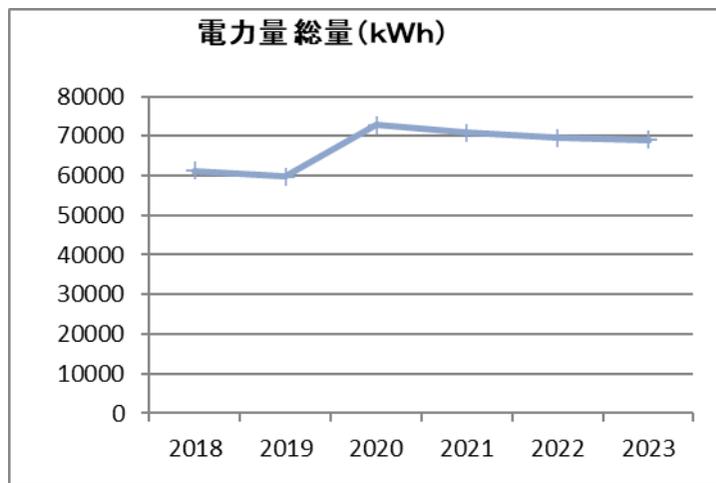
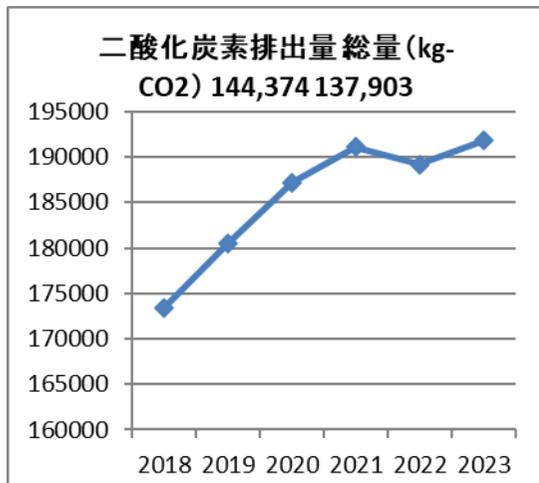
実施運用結果および評価

(1)2018年から2023年の6年間の実績は以下の通りであった。

基準年

		2018	2019	2020	2021	2022	2023	排出係数
二酸化炭素 排出量	総量 (kg-CO2)	173465.44	180539.74	187211.78	191122.96	189173.12	191813.13	
軽油使用量	総量(ℓ)	49722.1	55611.4	57649.97	59509.52	58921.27	60191.64	2.58
軽油燃費	(km/ℓ)	6.69	6.38	6.42	6.52	6.59	6.53	
LPG使用量	総量(ℓ)	8085.5	3508.2	0	0	0	0	3 1ℓ→ 0.53kg
LPG燃費	(km/ℓ)	2.12	2.06	0	0	0	0	
ガソリン使用 量	総量(ℓ)	1,835.50	1,805.30	2,225.62	2,245.28	2,305.10	2,148.44	2.32
ガソリン使用 量燃費	(km/ℓ)	10.05	10.11	10.48	10.66	10.85	11.1	
電力量	総量(kWh)	61272	59685	72844	70786	69444	69053	0.455
都市ガス	m ³	21	53	66	68	78.7	38	2.16
プロパンガス	m ³	12	12	12	12	20	16	2.07
水使用量	総量(m ³ /年)	314	329	394	412	390	357	
廃棄物排出 量(収集分)	総量(トン /年)	54.1	62.6	76.6	65.7	65.6	65.1	

比較しやすいように電力のCO2排出係数は
2018年調整後を使用した(0.455)



(2) また 2022 年～2024 年の目標は近年の状況を見て見直し 2018 年実績を基にと同様とすることとした。

項目名		基準年(2018) 実績	2022 目標	2023 目標	2024 目標
二酸化炭素 排出量	総量(kg— Co2/年)	173,272	179,324	179,324	179,324
軽油量削減	総量(ℓ/年) 燃費(km/ℓ)	49,722 6.69	57,000	57,000	57,000
LPG量削減	総量(ℓ/年) 燃費(km/ℓ)	8,085 2.12	0	0	0
ガソリン使用 量削減	総量(ℓ/年) 燃費(km/ℓ)	1,834 10.05	1,835	1,835	1,835
電力量の削 減	総量(kWh)	61,272	61,554	61,554	61,554
収集廃棄物 の排出量削 減・リサイク ル率の向上	総量(トン/ 年)	54.1t	54.1t	54.1t	54.1t
水使用量削 減	総量(m ³ /年)	314 m ³	314 m ³	314 m ³	314 m ³

(3) 目標の達成状況

2023 年度目標と実績は下記の通り。

j		2023 目標	2023 実績	対目標値	
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO ₂ /年)	179,324 kg	191,813kg	12,489 kg	増
軽油量削減	総量(ℓ/年)	57,000L	60,191L	3,191ℓ	増
	燃費(km/ℓ)	6.69km/ℓ	7.1km/ℓ	0.41km/ℓ	悪化
ガソリン使用量削減	総量(ℓ/年)	1,835L	2,148L	313ℓ	増
	燃費(km/ℓ)	10.05km/ℓ	11.1km/ℓ	1.05km/ℓ	向上
電力量の削減	総量(kWh)	61,554kWh	69,053kWh	7,499kWh 12%	増 増
収集廃棄物の排出量削減・リサイクル率の向上	総量(トン/年)	54.1t	65.1t	11t 20.30%	増 増
水使用量	総量(m ³ /年)	314 m ³	357 m ³	43 m ³ 13.70%	増 増

2023 年度期間の運用結果

・CO₂ 排出量について

2020～2021 の新型コロナによる巣ごもり需要により回収量・処理量が増えていたが 2022、2023 は落ち着いてきた

電力、燃料の使用量が増えた。

・燃費について

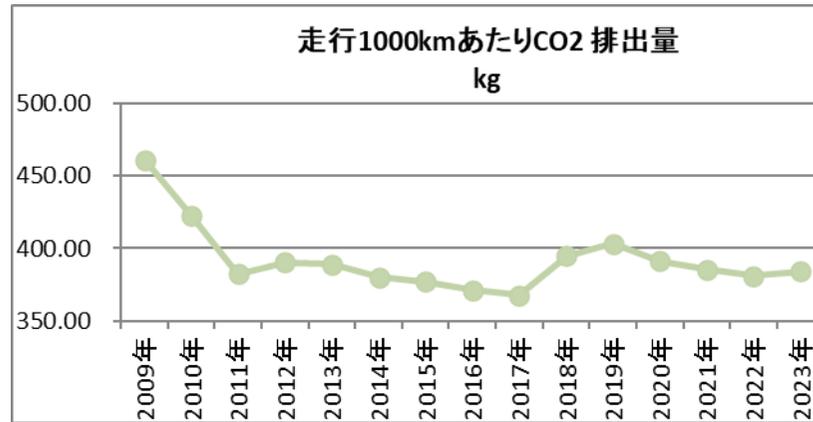
パッカー車の使用が増えたため軽油の燃費は若干悪化している。

体調管理・作業環境管理の点からエアコンの使用については細かく指示すべきではない。

一定の水準は維持している。配車の効率化、エコドライブがドライバーに浸透している。

前年から回収時の安全性と作業の負担減を重視し1台当たりの積み荷の量を減らしている。結果、回収車両の台数が増え(1日1台程度)、全体の燃料消費量も増えた。

走行1000kmあたりCO2排出量は一定の水準を維持している。



2014年	382.3kg
2015年	379.7kg
2016年	374.3kg
2017年	370.7kg
2018年	399.4kg
2019年	409.7kg
2020年	391.3kg
2021年	385.6kg
2022年	380.9kg
2023年	384.3kg

・電力消費の主な用途はビンの選別ラインのコンベア、缶の選別ラインのコンベア、プレス機である。

フォークリフトは本社事業所、戸田事業所ともにバッテリー式を使用している。

・水使用量は増えている。衛生状態を保つために車両やコンテナを清潔に保つ必要がある。

また新型コロナの衛生対策として手洗いの頻度が増えた。

・廃棄物排出量は前年同様、回収時に持ち帰るゴミが多くなっているため増えている。



< 主要な環境活動計画の内容 >

2024 年度までの目標を達成するため下記の計画を実行する

(1) 数値目標を達成するための取り組み

- ① 二酸化炭素排出量
 - ・不在時及び最終退出時の消灯、機械・空調の電源を切ることの確認
 - ・エコドライブの推進
- ② 軽油・LPG燃費
 - ・エコドライブの推進
- ③ 水使用量
 - ・洗車時の汲み置き洗いの励行
- ④ 廃棄物発生量
 - ・分別の徹底

(2) その他の取り組み

- ① 事務用品のグリーン製品の購入
 - ・たのめーるなどカタログで確認後必要なものを購入する
- ② リターナブルびんの普及のための調査・研究
 - ・東京壘容器協同組合青年部活動の参加
- ③ 従業員に対する環境教育の実施
 - ・ごみの分別、不在時消灯、エコドライブについてミーティングを行なう

< 環境活動の取組結果の評価・次年度の取組 >

(1) 数値目標を達成するための取組

① 二酸化炭素排出量

本社弥生町事業所、本社事務所、鷺宮事業所、戸田事業所

休憩室、更衣室の不在時消灯、空調の電源OFFなどはチェック表を作らなかったが（最終退出時のみ）不適合はみられなかった。よく管理されていた。

② 軽油・ガソリンの燃費

各運転手に業務終了後に、エコドライブの実施状況をチェック表に記入させた。しかし運転手の理解が不十分と思われる記載も見受けられた。車両の走行距離、燃料使用量は仕事量により変わる。

ディーゼル車の燃費は2021年も悪化した。1000km走行あたりでのCO2排出量は減った。

2009年に安全運転を徹底するため全車両に順次ドライブレコーダーを取り付けた。

燃費に影響しやすい急加速急減速は減ってきたもよう。（安全運転はエコドライブと関係がある）

2009年9月より全車両に運行管理システム（いすゞ MIMAMORI）を導入した。安全運転&エコドライブの点数や運転の仕方、アイドリング状態なども日報に記載されるので運転手もより意識するようになった。2010年以降は毎月の成績を貼り出すようにしており現在も継続中。今後も取り組む予定。

③ 水使用量

当初予定していた節水こまの取り付けはまだ実施できていない。

洗車時の節水はチェック表にて管理をした結果、雑巾がけでの清掃が浸透しており、水を出しっぱなしの洗車は見られなかった。

コロナ禍の中、衛生面に関することは必要。鷺宮にある洗濯機を使用する機会が増えているため使用量が増えている。

④ 廃棄物発生量

ごみの分別は以前より実施していたため十分に浸透していた。

資源収集時に混入していたごみも一緒に回収するためごみの発生量は増える結果となった。

コピー紙などは裏紙の使用が徹底されていた。

(2) その他の取組

① リターナブルびんの普及のための調査研究

コロナ以降、ビンの組合の活動自体が少なく、また参加もしなかった。

② 従業員に対する環境教育の実施

朝礼時に全日本トラック協会発行のエコドライブ推進手帳等を教材にエコドライブの項目について読みあわせをした。

東京都トラック協会のグリーンエコプロジェクトに参加し、エコドライブに取り組んでいる。また担当者の数を増やした。

前年に引き続き従業員に対し環境教育の一環として予算を組みエコ検定の受験を支援することとしたが受験者は無かった。

(3) 全体を通して

数値目標などは取扱量の増加などにより変化する幅が大きいので当面車両の燃費を指標とする。

車両燃費などは積載物の種類、走行ルート、車種によりだいぶ違ってくるので車両ごとに目標数値を定めて取り組むこととした。

<代表者による全体の見直しと評価>

新型コロナウイルスの影響は落ち着いてきた。

こまめなうがい手洗い、周囲の消毒や体調管理など今まで以上に衛生面に気を付けるようになった。

今後も社員の健康を第一に考えたうえで環境への取り組みを進めていきたい。

(適切性、妥当性、有効性の確認)

見直しに必要な情報 (報告者 北田等)	変更の必要性の有無・指示事項 (代表者)
(環境管理責任者の報告)	(環境管理責任者のコメント・提案)
環境方針	・現時点では特に改善する点はない。
[取り組み状況の評価結果]	① 環境関連法規制等の遵守状況 5年2月1日に定期評価を実施した結果遵守されている。 ② 是正及び予防措置の状況 ・緊急事態の訓練を実施した ③ 前回までの代表者の指示事項の対応 ・指示事項 毎月のグループミーティングは必ず実施
[目標・環境活動計画]	・2010年に導入した運行管理システム、無線機が有効に活用されており、全体での情報の共有・業務の効率化などに対する社員の意識は高まっている。 ・車両の入替は無かった ・ミーティングは2010年より継続して行っている。 講習で得た情報などを共有する体制が出来た。
[目標・環境活動計画の達成状況]	環境活動実施計画書による (対目標値) 電力の削減 12%増加した 燃料の削減 軽油は3191リットル増加 ガソリンは313リットル増加 廃棄物の削減 11トン増加 収集時のごみが増えている 節水 43m ³ 増加
	変更の必要性：なし
	変更の必要性：古い車両(トラック)は次年度にあと3~4台入れ替えを検討。 外部研修などはもっと利用したほうが良い。
	目標を達成していない項目は理由がわかったので、取り組み状況を確認すること。 新人の増加、エコドライブ教育不足、近年は夏の酷暑の影響が大きい。 コースを見直し、安全性向上と作業の負担軽減の為、回収車両を増やしたため燃料消費が増えた ディーゼル車の悪化はパッカー車の割合が増えたことも要因 水使用量は職場衛生や備品の衛生管理の為に必要な為増えた 車両のエアコン使用・電気使用量・水道使用量は社員の体調管理、職場衛生、労働環境などの点を考慮してあまり無理をさせないように。

〔その他環境経営システムの各要素〕	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアクション21の徹底を図るために、マニュアルの作成をして、勉強会を開催してゆきたい。 ・CO2 排出量や車両燃料などの数値目標は取扱量、積載物の種類やコースにより燃費は大幅に変わる。当面は燃費を指標にする。CO2 排出量に関しては参考数値とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務マニュアルなどは以前作ってあるので見直しをしてから社員で共有すること。 ・燃費などは運転手が正確に把握すること ・車両の管理責任者をもう一度見直し、燃費・洗車状況・点検状況などを徹底すること <p>今後人手不足が予想されるのでコースの再編や見直しが必要</p>
〔実施体制〕	特に変更の必要なし	変更の必要なし

<環境法規制への違反、訴訟等の有無>

(1) 適用となる主な環境法規

法令の名称	法令等の遵守すべき内容	法令の適用を受ける設備、行為	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の事業者責任、自社運搬の基準、処分の委託、マニフェストの管理、収集運搬許可要件、廃棄物再生事業者登録	びん・かん選別処理作業 選別処理後の残渣物の廃棄 廃棄物収集運搬 水銀産業廃棄物が出た場合には適正な業者に委託する	○
自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量の削減に関する特別措置法	事業者の責務 窒素酸化物、粒子状物質対策地域排出基準（車種規制）	びん・かん分別回収事業 びん・かん等出荷 廃棄物収集運搬	○
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	公共交通機関の利用、低公害車、低騒音車の利用、適正な整備、適切な運転 粒子状物質排出基準、アイドリングストップ、粒子状物質を増大させる燃料の使用禁止	びん・かん分別回収作業 びん・かん等出荷 廃棄物収集運搬	○
中野区廃棄物の処理及び再利用に関する法律	事業者の減量義務 適正処理困難物の抑制 事業系一般廃棄物の排出方法 産業廃棄物の処理 水銀産業廃棄物が出た場合には適正な業者に委託する	業務全般	○
中野区廃棄物の処理及び再利用に関する法律等施行規則		業務全般	○
労働安全衛生法	安全衛生推進者 選任 特定粉じん作業等の教育 局所排気装置 健康診断	全般 びん選別処理作業 びん選別処理業務 業務全般	○
フロン排出抑制法	第1種特定製品の管理者が講ずべき処置	全般	○

		業務用エアコン	
騒音規制法	騒音の規制基準 特定施設	全般 缶プレス機（届出済み）	○
振動規制法 則	振動の規制基準 特定施設	全般 缶プレス機（届出済み）	○
戸田市環境基本条例	事業者の責務	業務全般	○

定期的に法改正の確認を行っているが特に変更点は見当たらなかった。

(2) 違反・訴訟等

違反については関係機関から特に指摘はなく、また、訴訟等も同様に1件もなかった。